

クラシックバレエ上演のための劇場・ホールの諸元に関する研究 —アマチュアのパレエ教室公演を対象として

建築計画—施設計画

正会員 ○ 小林 祥子*1

正会員 勝又 英明*2

ホール 劇場 クラシックバレエ

規模 プロセニウム 楽屋

1. 研究目的

本研究ではクラシックバレエの上演を行うために必要な劇場・ホールの諸元について、アマチュアのパレエ教室を対象とした調査より現状の把握と分析を行い、アマチュアのパレエ上演を計画する劇場・ホールの設計の指針を作成することを目的とする。

2. 調査方法

バレエ教室主宰者に対してアンケート調査を行い、バレエの発表会を行うにあたって、利用したホールの諸元や利用条件、リハーサル場所に関する課題を明らかにする。対象は東京都23区内にバレエ教室を開講しており、現在発表会を定期的に行っている教室398箇所の子宰者とし、バレエの発表会を行うホールに関する調査アンケートを実施する。

表1 アンケート内容

直近開催の発表会について	基本情報	ホール名 開催年月、発表会開催頻度 出演者人数 プログラム構成、場面転換
	評価	舞台幅、主舞台奥行 上手・下手側舞台幅 楽屋数、楽屋広さ等 舞台床、搬入口
発表会主宰者としてホールへの要望	備品利用の有無	リノリウム、バレエバー 音響・舞台・照明装置 ソフト面、ハード面
	ホール選定条件	集客数見込みと必要な客席数 利用候補のホール
必要備品	リハーサル	ホール・楽屋・楽屋前廊下・ リハーサル室の備品 行う場所、広さ 気付いたこと、要望

3. 直近に行ったバレエの発表会について

3.1 アンケート結果

東京都23区内にバレエ教室を開講しており、現在発表会を定期的に行っている教室398件の内、69件の回答を得ることができ、回収率は17%という結果となった。

直近に行ったバレエの発表会の開催時期は、「2013年以前」が4件、「2014年上半期」が10件、「2014年下半期」が9件、「2015年上半期」が21件、「2015年下半期」が24件と、2015年に発表会を開催している教室が多く、全体の半数を超えていた(図1)。

発表会を行う頻度は「2年に1回」が最も多く36件で、次に「1年に1回」が19件、「1年半に1回」が10件、「その他・不定期」が3件と続き、「半年に1回」は1件ということから、2年に1回、もしくは毎年というペースで発表会を行う教室が大半を占めていた(図2)。



図1 開催時期

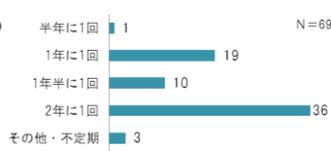


図2 開催頻度

3.2 出演者の人数

バレエの発表会に出演した、客演も含む出演者の総数は、「50~75人」が最多で25件、「25~50人」が17件、「75~100人」、「100~125人」が8件、「25人未満」が7件、「125人以上」が3件であった。最小値は15人、最大値は220人である(図3)。

次に、曲目のなかで、一度に舞台上で踊った最大人数は「25~50人」が最多の29件、「50~75人」が17件、「25人未満」が15件、「75~100人」は3件、「100~125人」が2件であった(図4)。舞台上で踊った人数の最小値は5人、最大値は120人である。

以上のことから、出演者総数は50~60人前後、舞台上で踊った最大人数は25~50人程度であった教室が多いという傾向にあることがわかった。

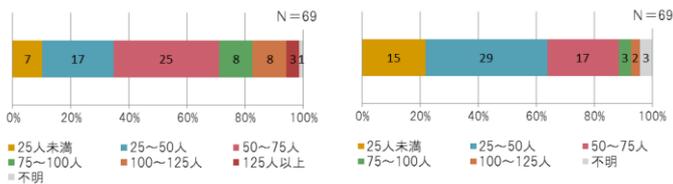


図3 出演者総数

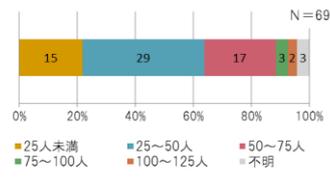


図4 舞台上の最大人数

3.3 発表会が行われたホール

直近にバレエの発表会を上演したホールは1486席の練馬文化センター大ホールの利用が最も多く、次に1803席のゆうぼうとホール、511席の江東区文化センター、509席の大田区民プラザ大ホール等、37箇所のホールが挙げられた。公立のホールが大半であり、同施設の大ホール、小ホールを1館と数えると、35館中31館が公立ホールであるという結果となった。

バレエの発表会を行ったホールの客席数は、最小値が239席、最大値が2222席となり、「500~750席」が最も多く21件、次に「1250~1500席」が13件、そして「750~1000席」「500席未満」の順に少なくなった。

よって、バレエの発表会には客席数500~750席程度の中規模ホールが多く利用される傾向にあるという結果となった(図5)。

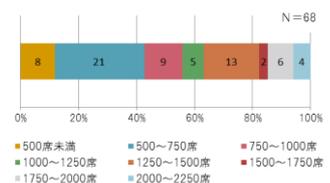


図5 直近のホール客席数

3.4 発表会が行われたホールの舞台幅の広さの評価

舞台幅の広さについて、「広い」「ちょうど良い」「狭い」「わからない」の3つの評定尺度で評価していただいたところ、最も多いのは「ちょうど良い」の45件で、65%と全体の半数を超えていた。次に「狭い」が17件(24%)、「広い」が6件(8%)という結果となった(図6)。

舞台幅を「ちょうど良い」とした回答者が利用したホールのプロセニウム幅は、最小値が10m、最大値は30.7mとなり、18mもしくは15~17mの範囲に該当する数値のホールが多くみられた(図7)。「狭い」と評価されたホールのプロセニウム幅は最小値が9.4m、最大値20mとなり、11~13mの範囲に該当する数値が多くみられた。

舞台幅を「ちょうど良い」と評価されたホールについて、プロセニウム幅と舞台上で一度に踊った最大人数をクロスさせたところ、幅16~18mの範囲であれば、様々な人数規模の発表会にも対応可能であるという様相が表れたものの、プロセニウム幅と人数との間にあまり相関が無いことがわかった。「狭い」では10~60人の小・中規模な出演者数であっても、幅9~14m程度では広さが不十分であるという結果となった。

3つの評価の分布を比較しても、人数の増減は評価にあまり影響がないことがわかった。

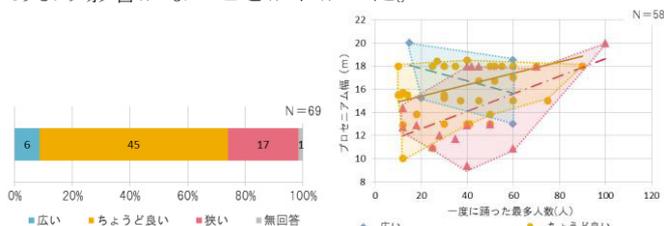


図6 舞台幅の評価

3.5 発表会が行われたホールの舞台奥行の広さの評価

舞台奥行の広さの評価は「ちょうど良い」が最も多く39件(56%)と、全体の半数を超えていた。次に「狭い」が25件(36%)、「広い」が4件(5%)であった(図8)。

さらに、「ちょうど良い」と評価されたホールの舞台奥行の最小値は6.9m、最大値は17mで、14~16m程度が多くみられた。「狭い」と評価されたホールの最小値は6.8m、最大値は20mであり、最大値を除いた6~15mの範囲で概ね均等に分布していた。

以上の結果より、14~16m付近を境に「ちょうど良い」と「狭い」の評価が分かるといことがわかった。

「ちょうど良い」という評価を得たホールの舞台奥行と、一度に踊った最大人数の関係をみると、奥行14~16m程度であれば、舞台上に立つ人数に関わらず適度な広さであると評価され易いということがわかった(図9)。

3つの評価の分布より、一度に踊った最大人数が30人以下の教室では14m、それ以上の人数で踊るならば16m程度の奥行であれば、「ちょうど良い」と評価される傾向にあると考えられる。

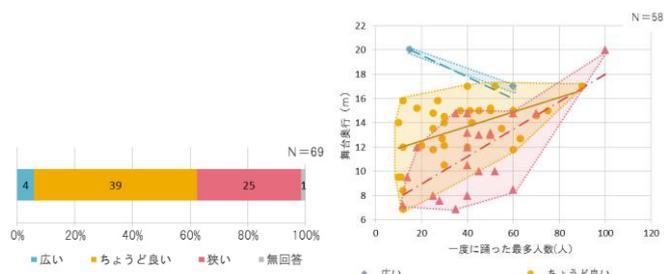


図8 舞台奥行の評価

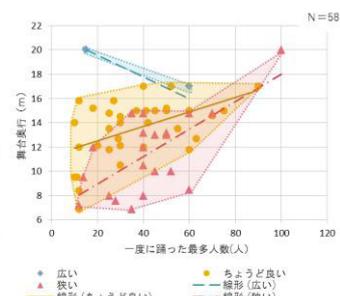


図9 舞台奥行の評価と人数

3.6 発表会が行われたホールの側舞台の広さの評価

上手側舞台の広さの評価は「狭い」が最多で38件(55%)、「ちょうど良い」が26件(37%)、「広い」が3件(4%)となった。「狭い」が過半数であった(図10)。

「ちょうど良い」と評価されたホールの上手側舞台幅は、6~9mの範囲に該当するホールが多くみられた。

下手側舞台の広さの評価は「狭い」と「ちょうど良い」がほぼ同数で、それぞれ32件(46%)、31件(44%)となり、「広い」は4件(5%)であったことから、バレエの発表会を行うにあたって、上手側舞台の広さに不足を感じる場面が多々生じるということがわかった(図11)。

「ちょうど良い」と評価されたホールの下手側舞台幅は最小値が3.9m、最大値は14.8mとなり、5~9mの範囲に該当するホールが多くみられた。



図10 上手側舞台の評価

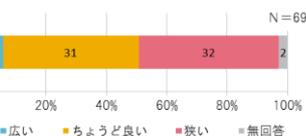


図11 下手側舞台の評価

3.7 発表会が行われたホールの舞台の床について

主舞台のリノリウムについて聞いたところ、空白であった1件を除き、全回答の69件中68件が「リノリウムを利用した」と回答した。ダンサーの踊りやすさ、シューズの保護、舞台床の見栄えの良さなど、あらゆる面においてバレエの発表会にはリノリウムが必要不可欠であることが伺える。

舞台の床について気になったことを6項目から複数回答可で聞いたところ、「なし」の次に「その他」が多く挙げられた(図12)。「その他」はリノリウムに対する意見が多い中、「リノリウムを敷いていても床の凹凸が気になった」と舞台床の仕上げや装置の納まりに不満を抱いている意見もみられた(表2)。

また、ダンサーにとっては程良い硬さの床であることが最重要条件である。適度に弾力性のある床はダンサーの脚への負担を軽減し、跳躍等をサポートする利点があるため、踊りやすい床の普及が求められている。

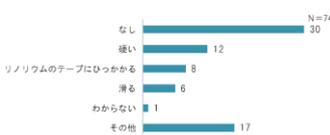


図12 舞台床で気になったこと

表2 舞台床の「その他」(一部)

リノリウムのテープの上で滑る
リノリウムは狭くは敷きたくない
リノリウムを敷いても追いつく凹凸が気になった
リノリウムの老朽化
リノリウムの光沢感による照明の反射等

3.8 発表会が行われたホールの側舞台のリノリウムとバレエバーの有無

側舞台にリノリウムを敷いたか否か、敷いた場合はリノリウムの範囲について聞いたところ、42件(61%)の発表会において、「舞台から袖幕付近」に限ってリノリウムを敷いていたということがわかった(図13)。側舞台上には一切リノリウムが敷かれていなかったのは13件(19%)で、側舞台全体にリノリウムを敷いていたのは11件と、全体の16%に留まっていた。主舞台だけでなく、側舞台にもリノリウムが敷かれていることで、シューズの保護や、本番の床に早く慣れやすくなる。

側舞台におけるバレエバーの有無は、「有」が19件(28%)、「無」が48件(71%)という結果となった(図14)。また、側舞台の全体にリノリウムを敷き、なおかつバレエバーを置いていたのは6件であった。作品の装置としてバレエバーが利用されたとき、あるいは本番前のレッスンを舞台上で行ったときに、側舞台にバレエバーが置かれる場合がある。側舞台にバレエバーがあることで、出番の前に軽い足慣らしが可能となり、本番に臨む出演者が踊る準備をするために役立つ。

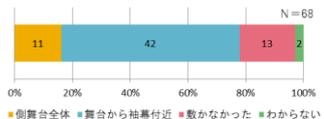


図13 側舞台床のリノリウム

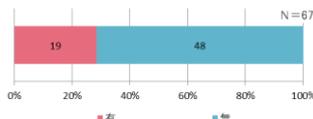


図14 側舞台のバレエバー

3.9 発表会が行われたホールの楽屋の評価

楽屋の数について、「ちょうど良い」「少ない」「わからない」の3択で評価していただいたところ、「少ない」が「ちょうど良い」を上回り、42件と62%にのぼった(図15)。「ちょうど良い」は25件(37%)であった。ホールが抱える一般的な問題点として楽屋不足が挙げられることが多く、バレエの発表会においても楽屋不足が起きていることが判明した。

「ちょうど良い」の楽屋数は、7,8室というホールが最も多く、「狭い」では3,4室と7,8室に二分されていた。

楽屋の広さについて、「ちょうど良い」「狭い」「わからない」の3択からなる評価では、「ちょうど良い」と「狭い」がほぼ同数であった(図16)。

「ちょうど良い」と評価された楽屋面積合計は、最小値90㎡、最大値423㎡で、200~250㎡に該当するホールが多くみられた。「狭い」と評価された楽屋面積合計は、最小値30㎡、最大値351㎡となり、半数のホールは100~200㎡の範囲に該当した。よって、楽屋面積の合計が200㎡以上であれば「ちょうど良い」と評価される傾向にあるという結果となった。

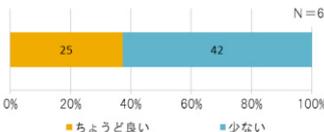


図15 楽屋数の評価

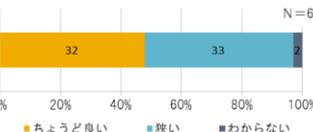


図16 楽屋広さの評価

3.10 発表会が行われたホールへの不満

直近の発表会で利用したホールに対する不満として、全体の34%が「特になし」と回答した(図17)。他には「駐車場が狭い」「リハーサル室が狭い」が10件を超え、「建物や設備が老朽化している」「ロビーが狭い」「ホワイエが狭い」と続いた。

「その他」では、特に発表会当日に大半の時間過ごす楽屋に対して、様々な不満を抱いていたことが明らかとなった(表3)。

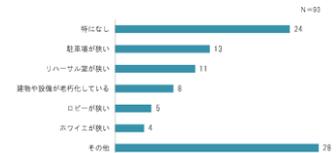


図17 ホールへの不満

表3 ホールに対する不満「その他」(一部)

客席	客席に親子室がない
舞台	舞台の奥行きがもう少しあると非常によい 松やにが使えなかった
楽屋	楽屋が少ない為リハーサル室を楽屋とした
	楽屋から舞台への階段が面倒
	楽屋仕様とする別館が遠い
	地上楽屋口から楽屋階(地下)間のエレベーターがないので、出入りが困難
	楽屋の一部空調が壊れていた
楽屋のトイレが少ない	
リハーサル室	リハーサル室の床が滑る 廊下のビーターイルに使用しているワックスも気になる
ホワイエ	ホワイエが無く、出演者は買い出しに行かなければならない
駐車場	専用の駐車場がない
	駐車場が遠い
ソフト面	セキュリティが甘く、舞台裏、楽屋を誰でも出入りが可能
	最寄駅から遠い
	施設の舞台面・客席・ロビーを別々に借りなければいけない所
	付帯設備料が高い

4. 発表会を行うホールの選定条件

4.1 ホール選定条件(ソフト面)

バレエの発表会主宰者がホールを選定する際、建物の条件について、最も重視する項目を聞いたところ、「教室から近い」が最も多く、24件(46%)、「使用料が手頃」は18件(34%)、「ホール利用申込の条件が良い」「駅から近い」等が挙げられた(図18)。「教室から近い」が最多数挙げられた理由として、本番当日の足慣らしを教室のスタジオで行える、教室から備品や機材等を持ち込むことが容易であるといった利便性を重視しているものと考えられる。

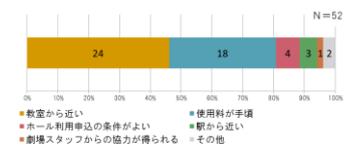


図18 重視する条件(ソフト面)

4.2 ホール選定条件(ハード面)

発表会主宰者がホールを選定する際、建物について、最も重視する項目として挙げられたのは、「舞台の広さ」が36件(70%)、「客席数」が14件(27%)、そして「舞台照明が充実している」が1件であった(図19)。「舞台の広さ」は作品の構成や演出に直接関与する要素であるため、出演者数や上演演目に適した広さの舞台であるかに着目してホールの選定を行っているということがわかった。出演者数に応じて、観客を過不足なく収容できる「客席数」のホールを利用することも重要である。

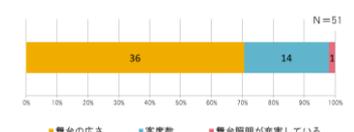


図19 重視する条件(ハード面)

4.3 見込み集客数・客席数

発表会を行う際に見込んである集客数は、「250～500人」が30件（46％）と、最多であった（図20）。その次に多いのは「750～1000人」で16件（25％）であった。

集客数を見込んだうえで、必要な客席数は「250～500席」が最多で23件（36％）、「500～750席」が14件（22％）であった（図21）。

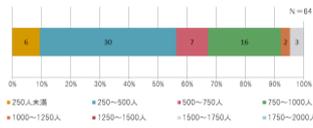


図20 見込み集客数

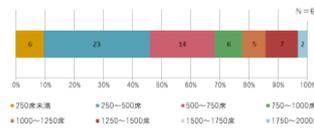


図21 必要な客席数

バレエの発表会を行うにあたって、必要とする客席数と、直近に利用したホールの客席数を比較すると、両者が同数となる位置（例えば、直近のホールが500席なら必要な客席数も500席）に対して、数値が下方に分布していることから、発表会主宰者が必要であると考えられる客席数よりも、客席規模が大きいホールを実際に利用したという結果となった（図22）。

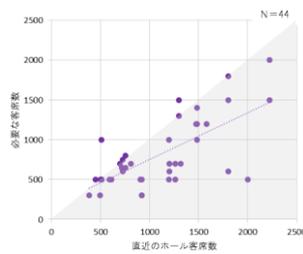


図22 客席数比較

4.4 ホールに必要な備品

必要なホールの備品は「リノリウム」が第一に挙げられ、次に「全身鏡」「バレエバー」といった備品をホール側に備えていることを希望する意見が挙げられた。

楽屋前廊下の壁面に取り付けておくべき備品として最も多く挙げられたのは「全身鏡」で57件、次に「ケータリング用テーブル」や「バレエバー」が選択された。全身鏡は出番前に衣裳の身だしなみや、身体のポジションをチェックするために必要となり、鏡の前で立ち止まっても問題ないように、楽屋前廊下にはある程度のスペースが求められる。また、全身鏡やバレエバーが楽屋前廊下に必要とされていることから、足慣らしができる場所としての機能を楽屋前廊下に求めているということが明らかとなった。ケータリング用テーブルはスタッフの荷物や、教室側からスタッフに向けた差し入れを置く場所として適している。

大楽屋に必要な備品は、「鏡台」、「テレビモニター」、「洗面台」、「衣類掛け」、「着替えスペース」、「椅子」、「ロッカー」、「テーブル」、「全身鏡」が多数選択された。

一方で「ソファ」は、衣裳を着たまま座ると背もたれでチュチュが潰れてしまうので、練習着の時にしか座れない。そもそも本番当日はソファに座れる時間的余裕がなく、楽屋の空間を圧迫するため、出演者が利用する楽屋にはあまり求められていない。ただし、スタッフや主宰者の控室においては、休息を取るため必要である。

4.5 ホールに対する要望

発表会主宰者が抱くホールに対する不満や要望を表にまとめた（表4）。要望のなかでも、「中規模のホールが少ない」「楽屋と舞台は同じ階がよい」「ホール使用料が高い」「1年以上前からホールを借りられるようにしてほしい」といった意見は特に多く挙げられていた。

表4 ホールに対する要望（一部）

客席	客席数1000席位のものはあるが、500席位の会場がありません 大・中・小、1500席、1000席、800席位のホールがもっと増えれば常々思う 親子室が客席に無い。乳幼児のいる家族の鑑賞に制限ができてしまう 客席の傾斜がきついと踊りにくい（圧迫感がある）、でも客席からは見やすい
舞台	舞台袖の広さが舞台と同じスペースが理想 バトンの数が少ないので、場面転換に時間がかかる 緞帳の絵柄が和風で、バレエ向きではない
楽屋	楽屋と舞台が同じ階に欲しい 楽屋のトイレの数が少ないと困る
リハーサル室	スタジオが狭いので、発表会前は公共施設を利用してリハーサルを行う。その際どこも床が滑り、ポワントに危険が伴う。リノリウムなしで使える滑らない床材を望む リハーサル室に関してコストを落とすため、他躯体の関係で柱がある。無柱である必要があると思う
他	地方のホールだと、スタッフが休んだりお弁当を食べたりするオープンスペースや、舞台袖と廊下の間に出演者の待機するスペースがある。（子役を並べさせておいたりできる）東京だと裏自体が狭いので難しいが、あるとありがたいあまりに古すぎると客足が遠のく
利用方法	ホールの予約期日が1年以上前であってほしい ホールの予約がネット予約になり、公正に行われているのかわからない。以前のようにくじ引き等で直接会館に行って予約するのが分かりやすいと思う ホール利用申し込みのシステムがないので改善を望む（抽選に向向き、クジで決まる方法） バレエに適したホールが少ない為、利用希望者は抽選をしなければならない。その抽選も年々競争率が高くなっており、厳しい。確実に定期的に発表会ができず、困っている 公共の施設は値段が手ごろなのが魅力だが、ルールがとても多いので（例えば来場者の名簿を提出しなければならない等）使いづらい点が多い

5. まとめ

調査結果より、バレエ教室が発表会を上演するにあたって発表会主宰者が求めるホールの諸元項目に関して、必要な条件を表にまとめた（表5）。

表5 発表会主宰者が求める諸元条件

客席	500席前後 親子室を設けること
舞台広さ	幅16～18m×奥行14～16m
側舞台広さ	上下共に幅6～9m
舞台床	バレエダンサーの為に考慮した、適度に弾力性のある床とする
備品	リノリウム、バレエバー、全身鏡を備える
楽屋	6～7室・合計200～250㎡以上 舞台と同じフロアに配置する 鏡台、テレビモニター、洗面台、衣類掛け、着替えスペース等を備える トイレは多めに備える
リハーサル室	主舞台と同じ広さ 滑らない床とする

謝辞

本研究を進めるにあたり、調査にご協力して頂いた各バレエ教室主宰者の皆様、そしてご指導くださったStudio ORANGEの中村美果子先生、スノーブレイクバレエアカデミーの加藤智恵子先生に深く感謝致します。

参考文献

- 1) 日本建築学会、多目的ホールの舞台設計資料、彰国社、1981
- 2) 日本建築学会、清家清、建築設計資料集成7 建築-文化、丸善、1981
- 3) 横田香苗 / 本杉省三、多目的ホールにおける楽屋広さと位置について：藤沢市民会館、鎌倉芸術館におけるバレエ公演調査を通して(1)、日本建築学会学術講演梗概集、pp355-356”、2003.7”
- 4) 横田香苗 / 本杉省三、多目的ホール楽屋ゾーンにおける出演者の行為と楽屋に対する要望 藤沢市民会館、鎌倉芸術館におけるバレエ公演調査を通して(2)、日本建築学会学術講演梗概集、pp357-358、2003.7

- *1 東京都市大学大学院工学研究科建築学専攻
- *2 東京都市大学工学部建築学専攻・博士（工学）